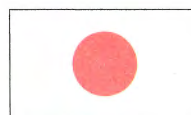


新釧路新聞

SENSHIN

9月22日土曜日



秋分の日

発行所 釧路新聞社

©釧路新聞社 2012

「自助の意識持って」



釧路あすなるクラブ例会

中小企業経営者らの異業種交流を目的とした経済研究団体釧路あすなるクラブ（齊藤政行会長）は19日、釧路キャッスルホテルで例会を開き、「津波」をテーマ

に、釧路市の防災の取り組みについて理解を深めた。同クラブは「郷土を愛し仕事に徹し 人と和す」を信条に毎年、年間テーマ

自助の意識が重要と強調する佐々木主幹

津波テーマに防災学ぶ

を定め、それに沿った例会活動を展開している。今年度はクラブ創設50周年の節目で、「半世紀、新たな飛躍」をテーマに研修を重ねており、今回の例会は「この半世紀で最も衝撃的な災害」（同クラブ）だった東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波に着目。講師に釧路市総務課総務部の佐々木信裕防災危機管理主幹を招き、津波からいかに身を守るか考えた。

佐々木主幹はまず釧路市の災害史を振り返り、この130年間で震度4以上の地震が70回発生し、避難を伴う津波が6年に1回発生していることを指摘。浸水被害がある津波も計算上、20年から25年に1回発生することを示した。

また、今年6月に道が発表した新しい津波浸水予測図について触れ、「想定が津波が来れば、市民12万人が避難しなければならず、高い所といっても限界がある。1952年の十勝沖地震津波では3万人が高台の親せきや知人宅に避難した。今から高台の知人と万一のために話し合っておくことも大事」と述べ、自助の意識を持つことが身を守ることにつながることを強調した。

（道永竜命）